

# 環境調査結果のお知らせ

平成21年7月30日  
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年7月30日午前9時30分から野見湾の環境調査をしましたので、結果をお知らせします。

## 概況

野見湾全域で雨の影響が見られますが、湾内の透明度は良好です。また、水深10m以浅の溶存酸素濃度についても飽和度は十分に高く、漁場環境的には良い状態となっています。調査した範囲内では有害プランクトンの出現数も少なく、赤潮の着色域もありませんでした。

## 溶存酸素

溶存酸素濃度は5.3～8.2mg/lでした。前回調査（7月23日、以下同じ）に比べると総体的に上がっており、漁場環境的には良好な状態になっています（表1・表2）。

## 水温

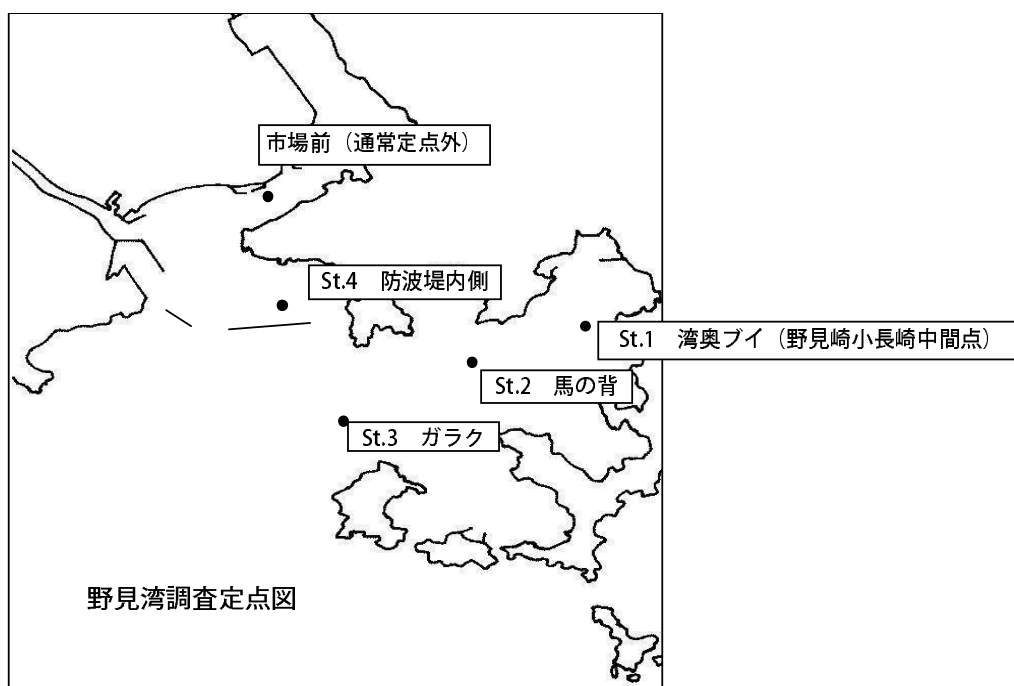
水温は23.9～26.9℃でした。前回調査に比べて表層部では上がりましたが、中底層では少し下がっています（表3）。

## 塩分

塩分は26.15～33.76でした。雨の影響で前回調査に比べて塩分は総体的に低下しています。特に表層の塩分が低下しており、塩分の鉛直勾配が大きくなっています。その結果、湾内には上下層間で密度成層が形成されていると考えられます（表4）。

## プランクトン

今回調査では、珪藻類が優占しており、有害プランクトンの出現数はごく少数でした。プランクトン調査の結果は3ページ目に記載しています。



「環境調査結果のお知らせ」は下記URLでもご覧いただけます。  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/040409/akashiojoho.html>

## 環境調査結果表（溶存酸素・水温・塩分）

表1 溶存酸素(mg/l)

平成21年7月30日

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.23)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均 ※	前回との差 今回-前回	
0 m	7.7	7.0	7.5	7.7	<b>7.4</b>	5.6	1.8	7.6
2 m	8.2	7.0	7.3	7.0	<b>7.5</b>	5.7	1.8	7.8
5 m	6.5	7.0	6.9	6.2	<b>6.8</b>	5.6	1.2	7.1
10m	5.6	6.8	6.5	5.9	<b>6.3</b>	5.0	1.3	6.1
B-1	5.4	5.3	6.4	5.6	—	—	—	—

表2 溶存酸素(ml/l)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.23)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均 ※	前回との差 今回-前回	
0 m	5.4	5.0	7.5	7.7	<b>6.0</b>	4.0	2.0	5.4
2 m	5.8	5.0	7.3	7.0	<b>6.0</b>	4.0	2.0	5.5
5 m	4.6	5.0	6.9	6.2	<b>5.5</b>	4.0	1.5	5.0
10m	3.9	4.8	6.5	5.9	<b>5.1</b>	3.6	1.5	4.3
B-1	5.4	5.3	6.4	5.6	—	—	—	—

表3 水温 (°C)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.23)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均 ※	前回との差 今回-前回	
0 m	26.9	26.8	26.3	26.3	<b>26.7</b>	25.7	1.0	26.6
2 m	26.2	26.0	25.8	25.8	<b>26.0</b>	25.5	0.5	25.7
5 m	25.3	25.2	25.3	25.0	<b>25.2</b>	25.7	▲0.4	25.0
10m	24.6	24.8	24.8	24.7	<b>24.7</b>	25.3	▲0.6	24.2
B-1	24.0	23.9	24.7	24.3	—	—	—	—

表4 塩分(ppt)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~3)	前回調査 (H21.7.23)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均 ※	前回との差 今回-前回	
0 m	29.81	30.64	29.19	26.15	<b>29.88</b>	33.25	▲3.37	20.71
2 m	31.68	31.91	32.55	31.65	<b>32.05</b>	33.25	▲1.20	31.76
5 m	32.74	33.20	33.11	33.11	<b>33.02</b>	33.50	▲0.48	33.17
10m	33.36	33.47	33.46	33.47	<b>33.43</b>	33.85	▲0.42	33.60
B-1	33.61	33.76	33.58	33.73	—	—	—	—

※ 湾奥2定点の平均値でガラクを含まない

表5 水深・透明度 (m)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	市場前
水深(m)	17.1	24.0	15.4	16.0	10.9
透明度(m)	5.0	5.9	6.5	4.9	3.9

## 環境調査結果表（プランクトン）

平成21年7月30日

単位 cells/ml

調査地点・水深		シャットネラ・マリナ シャットネラ・ アンティーカ	フィブロカプサ・ ジャポニカ	メソディニウム・ ルブラム	優占種
St.1 湾奥ブイ	0 m	0	0	0	キートセロス類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	1	0	0	//
St.2 馬の背	0 m	4	0	1	キートセロス類
	2 m	0	0	0	//
	5 m	0	0	0	//
St.3 ガラク	0 m	0	0	0	キートセロス類
	2 m	1	0	0	//
	5 m	1	1	0	//
St.4 津波防波堤 東側	0 m	0	0	3	キートセロス類
	2 m	1	0	3	//
	5 m	0	0	1	//
定点外 市場前	0 m	0	0	10	キートセロス類
	2 m	1	0	2	//
	5 m	1	0	0	//

## プランクトン

有害種のシャットネラ・マリナとシャットネラ・アンティーカが湾内全域で少数出現しています。また、シャットネラ類と同時に出現することのあるフィブロカプサ・ジャポニカも観測されています。シャットネラ類は養殖魚にとって危険な種類で、中層で増えてから表層に現れる傾向があります。そのため、赤潮状態に増殖する前に発見することが難しいので注意が必要です。

湾外水の影響が強い時に現れやすいメソディニウム属が、馬の背漁場と津波防波堤東側で小数出現しています。本種は魚類には基本的に無害です。

湾内の優占プランクトンは珪藻類のキートセロス類でした。珪藻類は海水中の栄養塩類を吸収し、光合成により酸素を放出する効果がありますので、適度な発生は漁場環境にとって有益と考えられます。珪藻類は基本的に魚類には無害です。

なお、コクロディニウム・ポリクリコイデスは今回調査では観測されませんでした。

高水温と雨の影響で赤潮が発生しやすい時期です。プランクトンの動向（海面の着色、潮の流れ、色、濃さ）と養殖魚の様子には注意するようにしてください。また、有害プランクトンのなかには、海面からは見えにくい中層で増殖する種類もあります。航跡まわりの泡立ちや着色にも注意してください。海の状態や養殖魚の異常を感じたときなどは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。